

日南町が取り組む道の駅「にちなん日野川の郷」を通じた地域活性

増原 聡 氏（鳥取県 日南町長）

【質問】

- コンパクトヴィレッジは、とても素晴らしいアイデアで、これからの地方都市・村落があるべき形だと思いますが、実際には地域住民の方の評価・満足度は、どのようなものかお聞かせください。また、コンパクトヴィレッジのシステムに重要なコミュニティバスの利用状況についてもお聞かせください。

(回答)

コンパクトヴィレッジ構想は住民の皆様を1箇所に集約してしまうものとは違い、行政、医療、福祉、道の駅を集約化しそこへ巡回EVバスを運行させることにより、暮らしている地域を守りながらコンパクトな行政を実現するものであります。住民の皆様の評価はこれからであると考えておりますが、道の駅の運営は住民である出荷者の皆様なくしてはなりたちません。道の駅は単なる住民が集う場所ということだけでなく、住民の皆様の『役割感』にも貢献しています。

また、EV巡回バスの利用状況であります。12月時点で約1,500人（月あたり約190人）の方に利用いただいております。今年度は運行形態等試験的な要素も含んでおりますので次年度以降試験結果を受け、時間帯等より利用しやすいものにしていきたいと考えております。

【質問】

- 道の駅事業の成功による日南町全体の経済効果を教えてください。

(回答)

約7,000万円程度の経済効果を見込んでおります。

【質問】

- J-Ver (Japan-Verified emission reduction) の販売単価（円／t）を教えてください。

(回答)

現在日南町では、8,000円／tで販売をしております。

【質問】

- コンパクトヴィレッジのコアとなる中心部と居住地間の移動手段の確保とそのコストのバランス、無人運転自動車等の試験についてのお考えをお聞かせください。

(回答)

日南町は典型的な中山間地であり、面積も鳥取ついでに県の1割を占める町です。自宅からバス停までの距離が非常に遠い住民の方もおられます。そういった方のために、より細かい路線に入っていくことができ、より細かなバス停設定を行った小型のデマンドバスを平成21年度より運行し、従来の路線バスとともに住民の皆様にご利用いただいております。

ご質問いただきました無人運転の試験等については現時点では検討しておりません。

再生可能エネルギーによる地方創生

赤川 彰彦 氏（三菱総合研究所 客員研究員）

【質問】

- 三菱総合研究所（MRI）が果たされている役割を教えてください。また、その活動資金をどう確保しているのかも教えてください。

（回答）

再エネにおけるMRIの役割は、各地公体に対してエネルギー政策の再構築と地球環境への貢献のために地域資源（太陽光、風力、バイオマス、水力、地熱、省エネなど）の調査や地方創生のために観光を含めて域内経済の活性化推進策などを提言しています。そのための活動資金は、国および地公体からの受託です。

【質問】

- 観光がなぜ永続的といえるのか教えてください。

（回答）

各地公体には観光資源として自然資源、歴史的資源、文化・社会資源、人口施設資源、技術資源や特産的資源があり、それらが観光客にとって魅力ある地域や場所であれば、永続性が堅持されます（ex 京都、長野善光寺、富士山、温泉）。それには、観光客の多様化したニーズを正確に把握し、それに対応したまちのビジョンを明確にし、それに適合した人材の確保と仕組みづくりなどが重要なファクターになります。

カルネコ株式会社が取り組む日本の森林保全を通じた地球温暖化対策

菅谷 健夫 氏（カルネコ株式会社 アートディレクター）

【質問】

○ どのように会社を回しているのか教えてください。

（回答）

EVIはプレゼンでお話いたしました。カルネコ株式会社が行っているPOP実需調達の事業益を利用して行っているCSRとして2011年よりスタートしております。クレジットの流通を通じて日本の森と水と空気を守る組織体として法人化を目指しており「森のめぐみのおとりよせ」や「EVI SHOP」の環境貢献型商品販売や自治体へのコンサル、環境貢献型商品開発案件のサポート、メッセージ開発やデザインなど、収益事業をベースに持続可能な環境貢献と地域活性化の事業化を目指しています。

【質問】

○ カルネコの1400tオフセット量の算定根拠について教えてください。

（回答）

カルネコの製品について全量カーボン・オフセットを開始するに当たり専門機関へ排出量算定の調査を依頼。

・調査の背景

弊社では、平成24年よりPOPツール類を梱包する段ボールなどの外装材についての排出量把握及びカーボン・オフセットに取り組んできた。今回、この取り組みをさらに拡大させ、自社で企画、製造委託しているPOPツール類についても排出量の把握及びカーボン・オフセットの実施を行なうこととした。

そのため、自社で企画作成したPOPツール類の製造に伴う環境負荷のうち、合理的なデータ収集が可能な範囲において、カーボン・オフセットの対象排出量として設定することを目的として調査を実施

・排出量の把握の目的と調査の前提条件

自社で企画、製造委託を行なっているPOPツール類について、“製品に係るカーボン・オフセットの取り組み”【カーボン・オフセットガイドライン Ver.1.0 平成27年3月31日より】において、算定対象範囲に含めなければならない温室効果ガス排出活動として記載されている以下の項目の把握を目的として実施。

・製品本体を構成する原材料の製造に係るエネルギー使用 1054 t

・製品本体の製造に係るエネルギーの使用 314 t

なお、調査対象とするPOP類は、様々な形状で少ロット多品種での製造・納品を特徴としており、個々の製品単位での排出量把握は、時間的予算的観点から難しい。

そこで、協議の上POPツール類の製造工程について、網羅性のある評価シナリオを制作しこの排出量を把握する方向で実施。算定量は年間1368 t。

【質問】

○ 2017年のEVI マッチングイベントの日程を教えてください。

(回答)

今年も2017年10月24日(火)にEVI環境マッチングイベントを開催いたします。

【質問】

○ トレイルラン参加者に取組み趣旨を伝えるために行った工夫はありますか。

(回答)

参加者の皆様へは参加ガイドブックに森林支援の仕組みと意義を紹介。ブースにパネル展示、表彰状、参加賞は間伐材を使って作成。ゼッケンにEVIのロゴを表示して認知拡大を図っております。